

「韓国に特有のこと」 太田心平（国立民族学博物館准教授）

(1) 元日はみんなが歳をとる日 2020年1月4日刊行

韓国に特有のことを探すのは至難の技だ。日本と違う物事を発見しても、それはシベリアや中国や日本に発したものの、当地には残っていないことだったり、時には、世界で日本社会があまりに独自の路線を歩んでいるがため、韓国が特別に見えるだけだったりということも。

初回は、正月らしく年齢と誕生日について。なぜ正月らしいかと言えば、韓国では今でも「数え年」で年齢を言い表すからだ。つまり、何月何日生まれの人でも、元日は年齢が一つ増える日なのである。

数え年、韓国で言う「韓国年齢」のシステムを略説しよう。赤ん坊は生まれながらに、0歳でなく1歳である。そして、正月を迎えるたびに歳を取る。だから、人々の自称する年齢は、満年齢、韓国で言う「西洋年齢」より1〜2歳多くなる。その年の誕生日がまだ来ていないなら満年齢に2歳、来た後なら1歳を加えた年齢だ。そして韓国では、満年齢の回答につまるといふ人が多い。

現代では、そんな韓国でも数え年の基準が、旧暦ではなく新暦の元日になったが、韓国では誕生日を旧暦で登録することが可能でもある。誕生日が同じ日でも、たとえば新暦の1月4日は、旧暦の1月4日と同じでない。私は今年も陰暦のカレンダーを入手し、親友たちの誕生日を逃さないため四苦八苦する。



韓国のカレンダー。陰暦の日付も、隅（画面左下）に小さく併記されている＝筆者撮影

(2) キャッシュレス先進国の気持ち 2020 年 1 月 11 日刊行

クレジットカード、デビットカード、電子マネーなどを使うことで、現金での取引をしないキャッシュレス決済。日本でもその浸透が推進される今日、よく話題となるのが、韓国のキャッシュレス比率の圧倒的な高さである。96%を越えているとする統計もあるほど。なぜ？

韓国でキャッシュレス決済が普及したのは、2005 年だった。消費者がキャッシュレス決済をするたび、誰がいくら使ったかが税務署のデータに入るようになり、年度末には、世帯ごとの年間支出額が算出されるようになった。そして、支出が年収の一定割合を越えると、越えた分の一部が、所得控除の対象になる。

なお、現金決済をする場合も、世帯主の電話番号を告げるなどすれば、現金領収書なるものが発給されて、税務上でカウントされる。ただ、支払いのたびにこの発給作業をレジでおこなうのは面倒。また、徹底して税務管理されているという意識が広まるにつれ、キャッシュレス決済を拒否する店や、現金領収書を発給しない店は、脱税でもしているかのように怪しまれるようになった。

韓国でキャッシュレス決済が普及した理由は、その方がお得だから？

いや、話はもう少し複雑だ。面倒さ、被管理意識、怪しみなど、人びとの気持ちが政策を後押ししたことも、けっして看過できないのである。



諸外国と同じく、韓国でも、銀行のキャッシュカードは一般的にデビットカードとして発行される=2019 年 11 月 17 日、筆者撮影

(3) 化粧する青少年たち 2020年1月18日刊行

大学の韓国文化論の授業は、韓国社会の伝統的な男尊女卑や、軍国主義に発した現代のマッチョ志向に、必ず言及する内容。だが、昨今の学生は「？」という反応をする。

韓国の男性の美意識は、この20年間で激変した。1990年代の男性の多くは、「服なんか、母や妻に買わせるもの」と言っていた。彼らに美意識がなかったのではない。「男子たるもの、見てくれは二の次」という別の美意識があったのだ。

だが、2000年代の韓国男性は違った。服や靴、そして基礎化粧品に相当の金と時間を費やしはじめた。10年代になると、ベーシックながら一部が可愛いデザインの、韓国チックな男性服が、世界でも知られるようになっていった。

そして、基礎化粧の効果か、驚くほど美肌の青少年が、韓国にあふれはじめた。ファンデーションまで付ける韓国男子も、世界の若者をざわつかせた。だから、日本だけでなく欧米の大学の授業でも、旧世代の教員の話に、学生たちは首をかしげている。

ただ、口紅を塗る韓国の青年たちにワケを聞き、私はハッとした。「既存の男性像と自分を区別するため」のような声の多いこと。だとすれば、彼らのことは歴史的文脈を知らねば理解できないし、当事者にとっても化粧はかなり男性性に余裕があるからこそできることなのでは？



韓国で人気を博する男性用の色付きリップ＝2019年11月、筆者撮影

(4) 急速な国民の再編成 2020 年 1 月 25 日刊行

単一民族神話とか均質社会とかいうと、日本に特有のことのようにならる。しかし、お隣の朝鮮半島も、高度に統合された社会を築いてきた。その韓国の社会が、ここ 20 年で多文化社会へと激変している。

高度経済成長で都市中産階層が急増し、特に首都圏は人口の過半数を擁するまでになった。反面、農村の過疎化は止まらず、1990 年代に嫁不足が深刻に。結果、東南アジアなどから花嫁を迎えるようになり、婚姻届の 8 割以上が国際結婚という自治体まで次々と現れた。いまや全国平均でも 8% 以上の世帯が「多文化家庭」。この変化の速さが韓国だ。

他方、流出する人口も目を引く。20 世紀に朝鮮半島から流出した人口は実に 1 割。70 年代までは、貧しさゆえの移民が主だったが、80 年代には、上昇志向の上流階層の移民も目立った。多くは米国を目指した。

では、先進国になった現在、韓国から移民は出ないのか。いや、むしろ人口流出は加速している。例えば近年には、韓国社会の生きづらさから逃れ、自分らしく暮らせる場所を見つけようという若者で、北欧や中欧の韓国系人口が急増した。

4 週にわたり韓国に特有のことをつづった。我々の常識だけで判断すると不可解な韓国の事情でも、背景や文化の違いを加味して考えれば、案外すんなり腑に落ちるものである。



ソウルからニューヨークに飛行機が到着した。乗客には移民も少なくない=2018 年 7 月 28 日、筆者撮影